

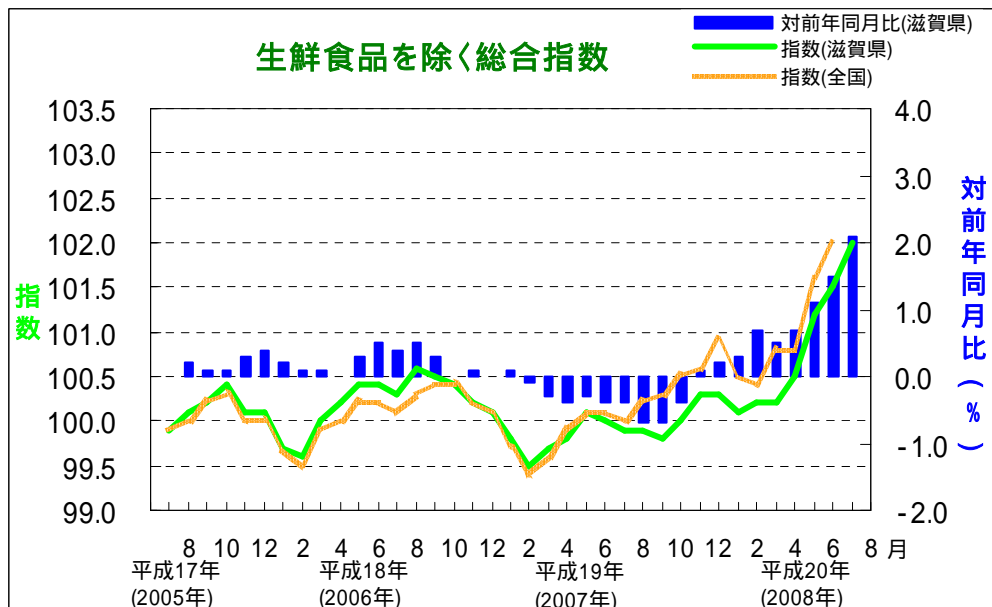
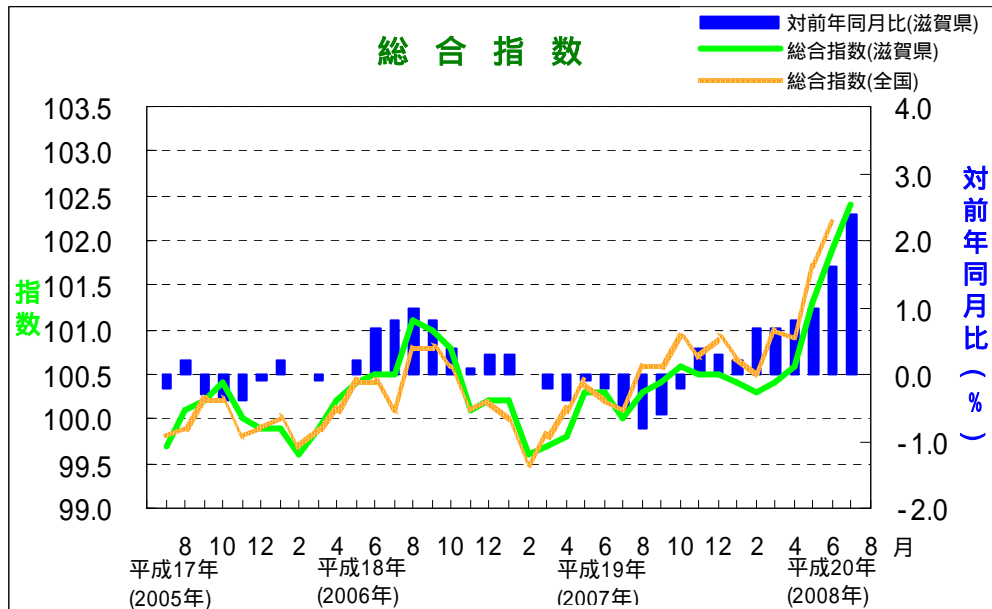
平成17年基準 **消費者物価指数（大津市）**
平成20年（2008年）7月分

平成20年7月分消費者物価指数（大津市）概況（平成20年8月29日公表）

前年同月比で9か月連続の上昇（平成17年=100）

総合指数 102.4（前月比） 0.5%上昇
（前年同月比） 2.4%上昇 **9か月連続の上昇**
平成15年7月(2.4%上昇)以来の高い上昇幅

生鮮食品を除く総合指数 102.0（前月比） 0.5%上昇
（前年同月比） 2.1%上昇 **9か月連続の上昇**
平成15年7月(2.3%上昇)以来の高い上昇幅



前月との比較

総合指数は102.4で、前月と比べると、自動車等関係費が1.9%、調理食品が3.5%上昇したことなどにより、0.5%上昇しました。最近の動きとして、平成20年2月(100.3)以降の5か月間で2.1%上昇しています。

生鮮食品を除く総合指数は102.0で、前月と比べると、0.5%上昇しました。最近の動きとして、平成20年3月(100.2)以降の4か月間で1.8%上昇しています。

上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

自動車等関係費 [交通・通信]	(+)	1.9%
調理食品 [食料]	(+)	3.5%
肉類 [食料]	(+)	4.1%
教養娯楽サービス [教養娯楽]	(+)	1.2%
生鮮魚介 [食料]	(+)	3.7%
他の光熱 [光熱・水道]	(+)	11.6%

下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

シャツ・セーター類 [被服および履物]	(-)	10.3%
洋服 [被服および履物]	(-)	4.4%
生鮮果物 [食料]	(-)	6.6%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

【10大費目別に見た前月との比較】

食料	105.3 (+1.0%)	↗
住居	100.2 (+0.1%)	↗
光熱・水道	107.5 (+2.1%)	↗
家具・家事用品	97.7 (+0.5%)	↗
被服および履物	97.3 (-3.9%)	↘
保健医療	99.0 (-0.7%)	↘
交通・通信	106.6 (+1.3%)	↗
教育	102.8 (変動なし)	→
教養娯楽	95.9 (+0.8%)	↗
諸雑費	102.1 (+0.3%)	↗

前年同月との比較

総合指数は、自動車等関係費が8.7%、生鮮野菜が18.9%上昇したことなどにより、前年同月と比べて2.4%上昇しました。これは、平成15年7月(2.4%上昇)以来の高い上昇幅です。下落したのは、教養娯楽用耐久財(21.3%下落)、飲料(6.7%下落)などです。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べると2.1%上昇しました。これは、平成15年7月(2.3%上昇)以来の高い上昇幅です。

上昇した中分類指数の主な項目(寄与度順)

自動車等関係費[交通・通信]	(+)	8.7%
生鮮野菜[食料]	(+)	18.9%
調理食品[食料]	(+)	9.2%
外食[食料]	(+)	4.6%
肉類[食料]	(+)	10.3%
他の光熱[光熱・水道]	(+)	50.8%
穀類[食料]	(+)	7.1%
菓子類[食料]	(+)	6.2%
生鮮魚介[食料]	(+)	8.7%
電気代[光熱・水道]	(+)	3.7%
乳卵類[食料]	(+)	7.1%
教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	1.6%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(+)	2.7%

下落した中分類指数の主な項目(寄与度順)

教養娯楽用耐久財[教養娯楽]	(-)	21.3%
飲料[食料]	(-)	6.7%
保健医療用品・器具[保健医療]	(-)	6.9%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

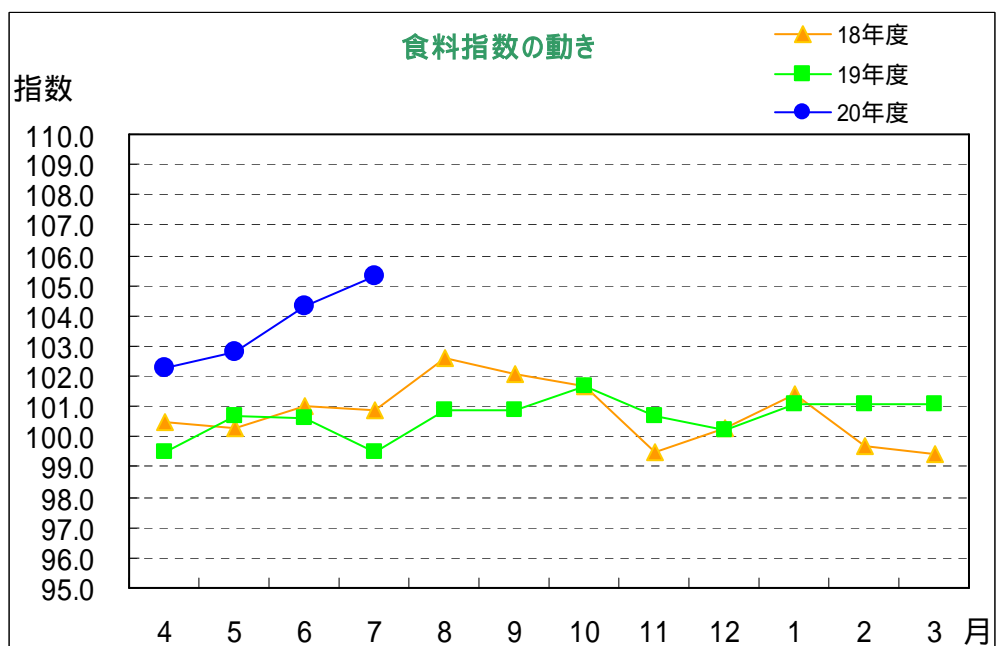
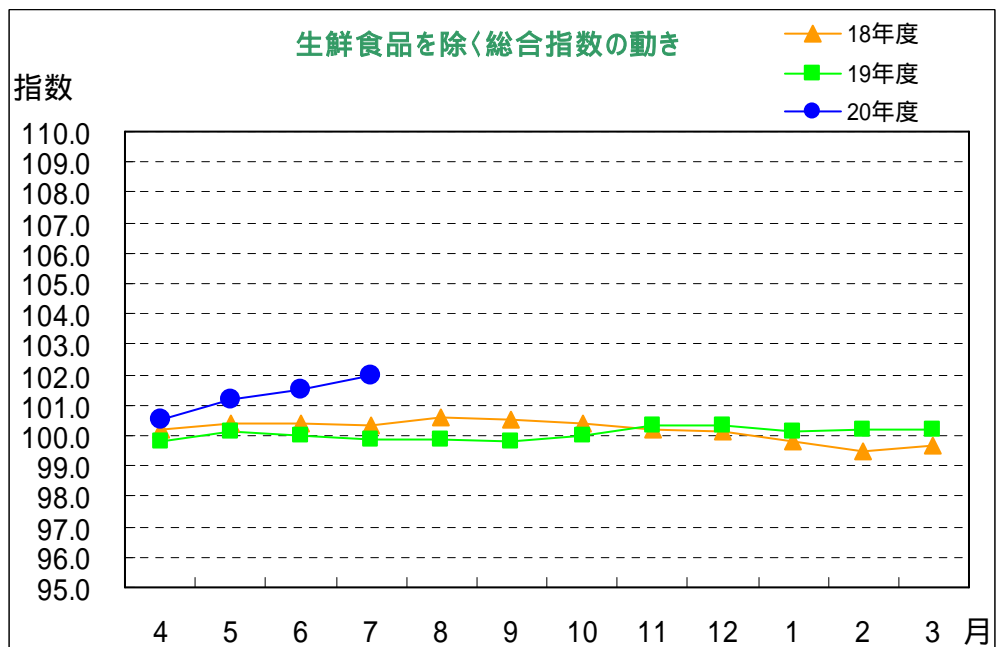
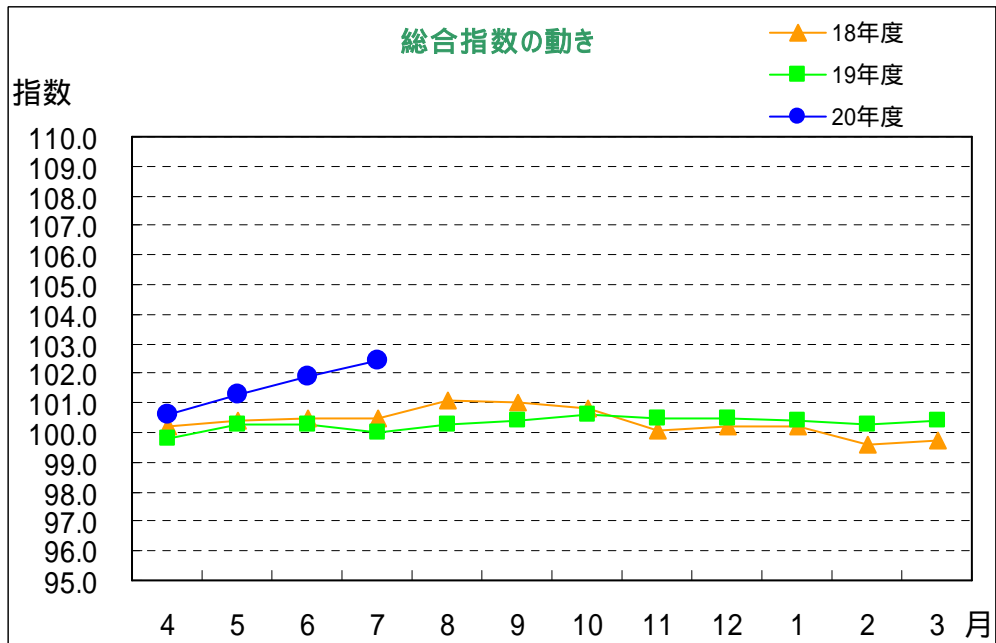
10大費目指数、前月・前年同月比および寄与度

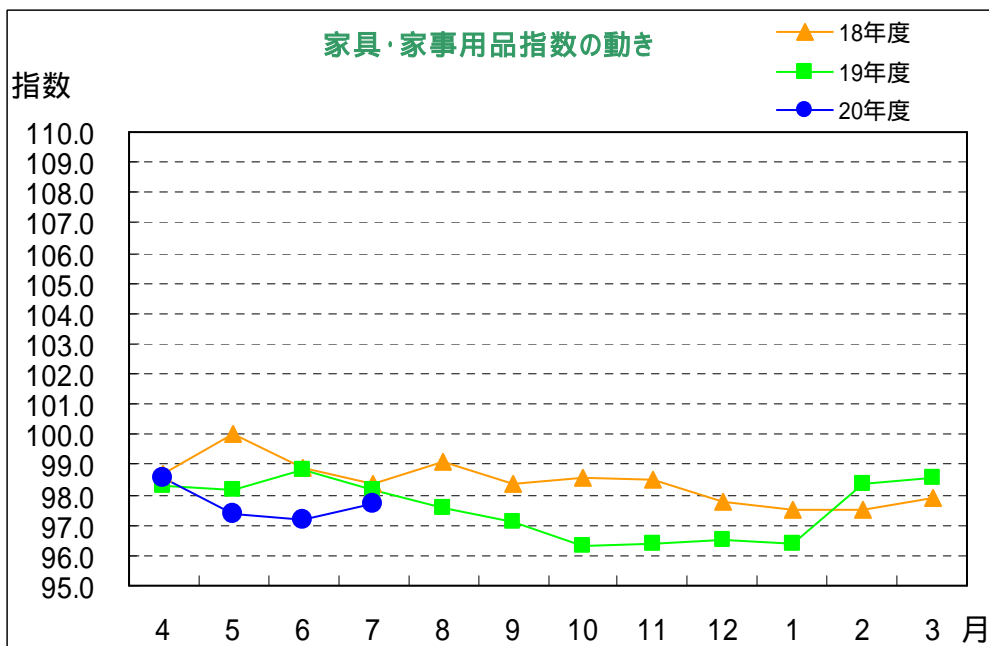
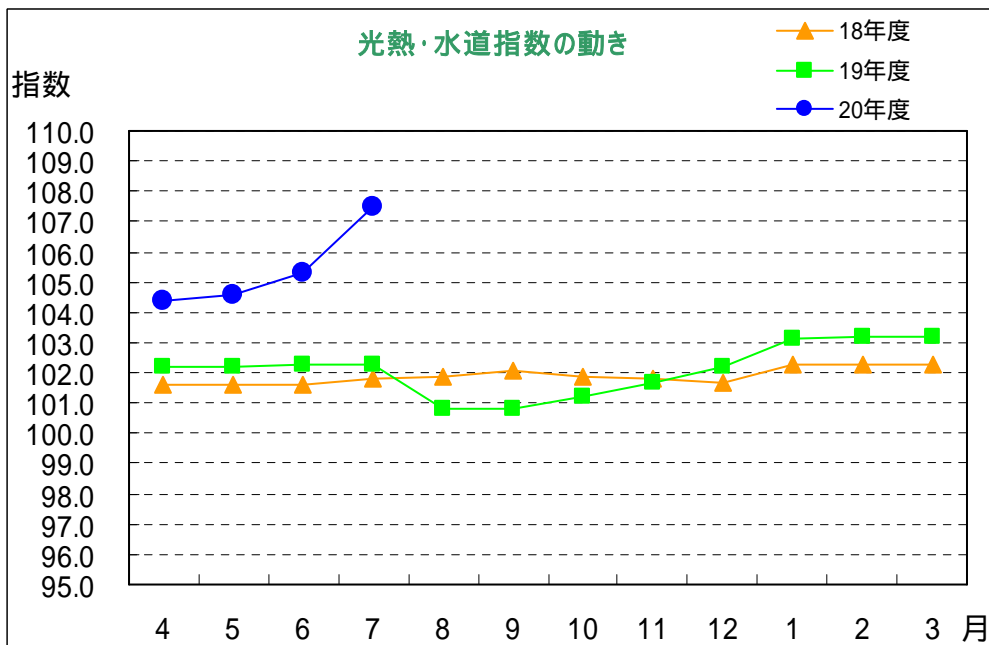
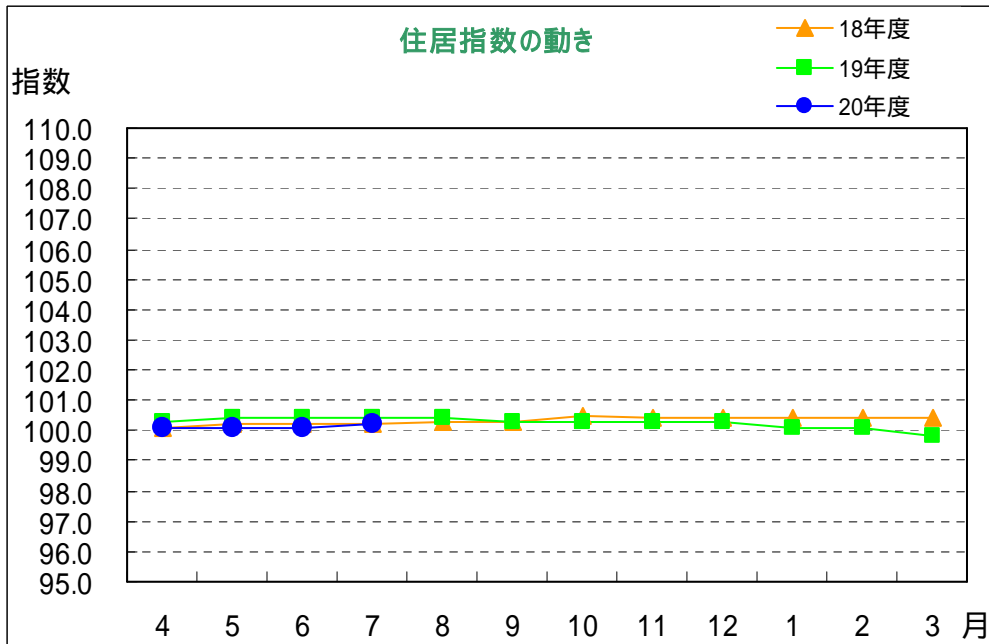
区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度(*)	上昇率(%)	寄与度(*)
総 合	102.4	0.5		2.4	
食 料	105.3	1.0	0.25	5.8	1.47
住 居	100.2	0.1	0.02	-0.2	-0.04
光 熱 ・ 水 道	107.5	2.1	0.14	5.1	0.34
家具・家事用品	97.7	0.5	0.02	-0.5	-0.02
被服および履物	97.3	-3.9	-0.17	-1.8	-0.08
保 健 医 療	99.0	-0.7	-0.03	-0.5	-0.02
交 通 ・ 通 信	106.6	1.3	0.20	5.4	0.80
教 育	102.8	0.0	0.00	0.6	0.03
教 養 娯 楽	95.9	0.8	0.08	-0.6	-0.06
諸 雑 費	102.1	0.3	0.02	0.4	0.02

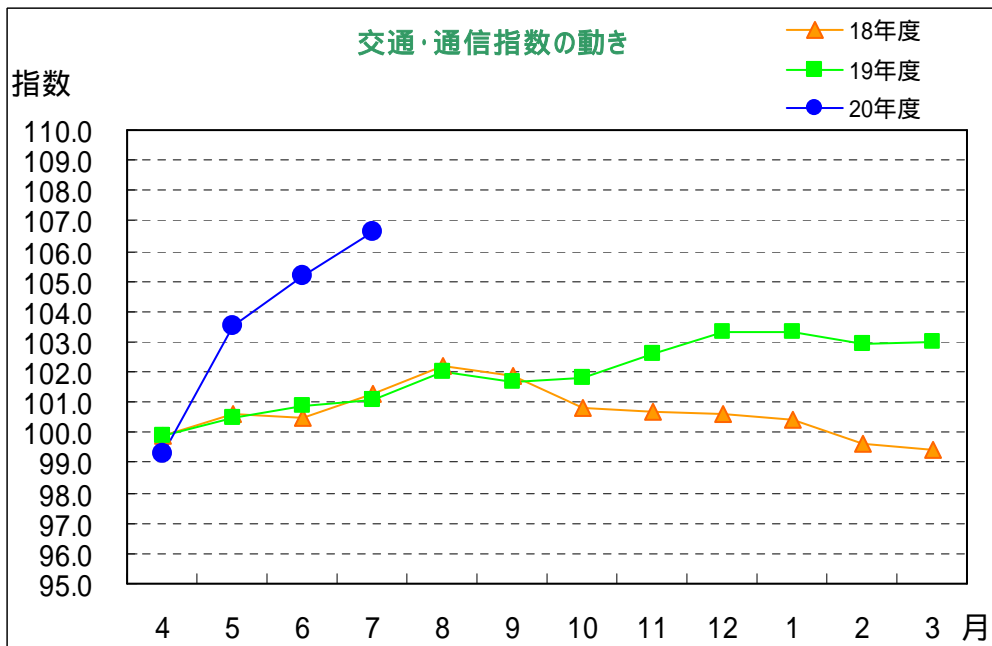
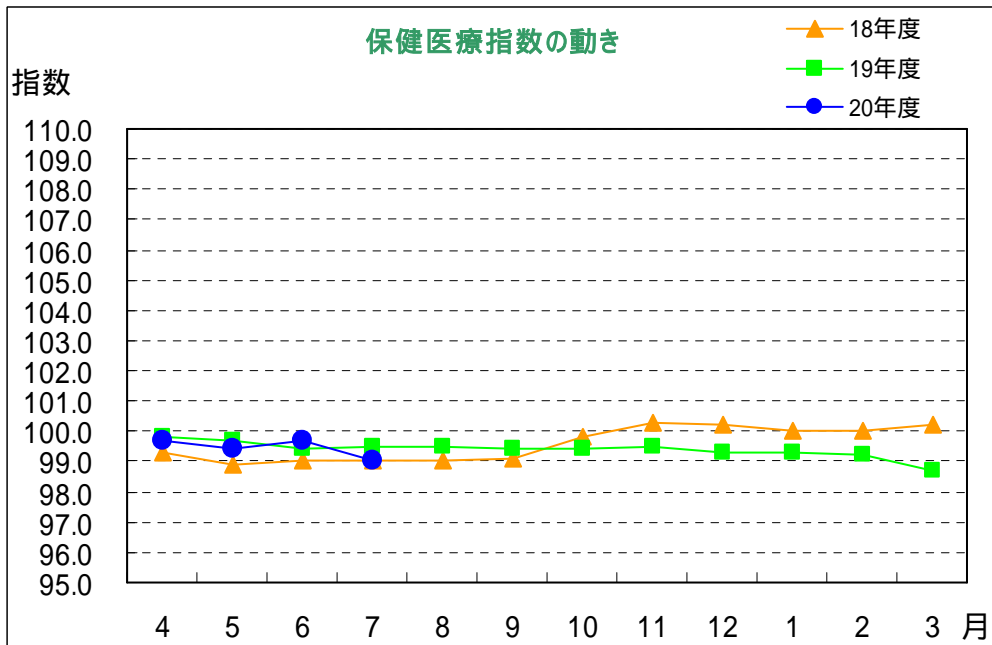
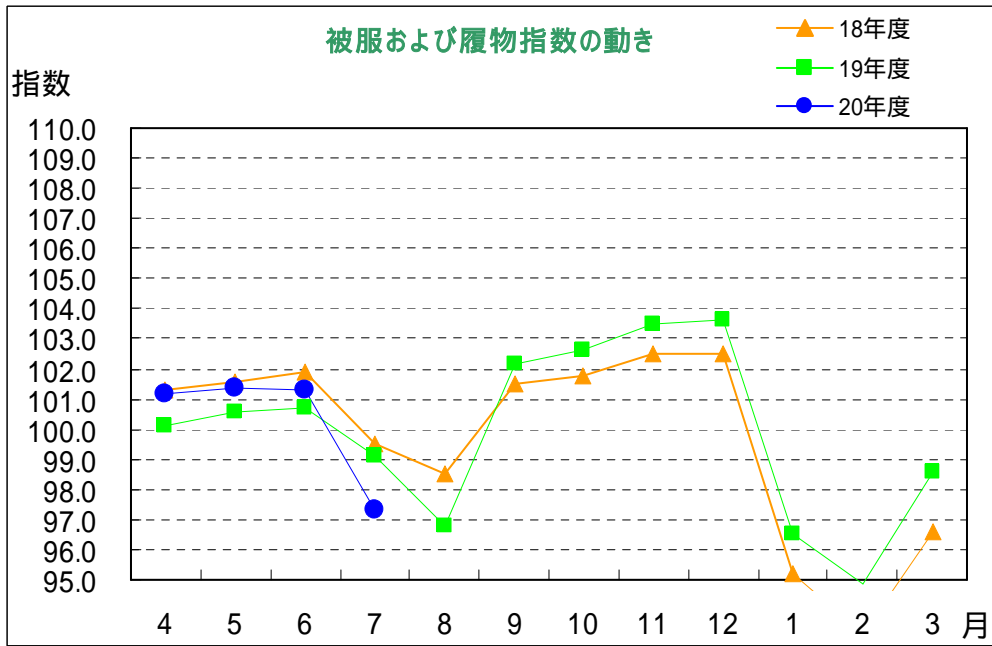
平成17年=100

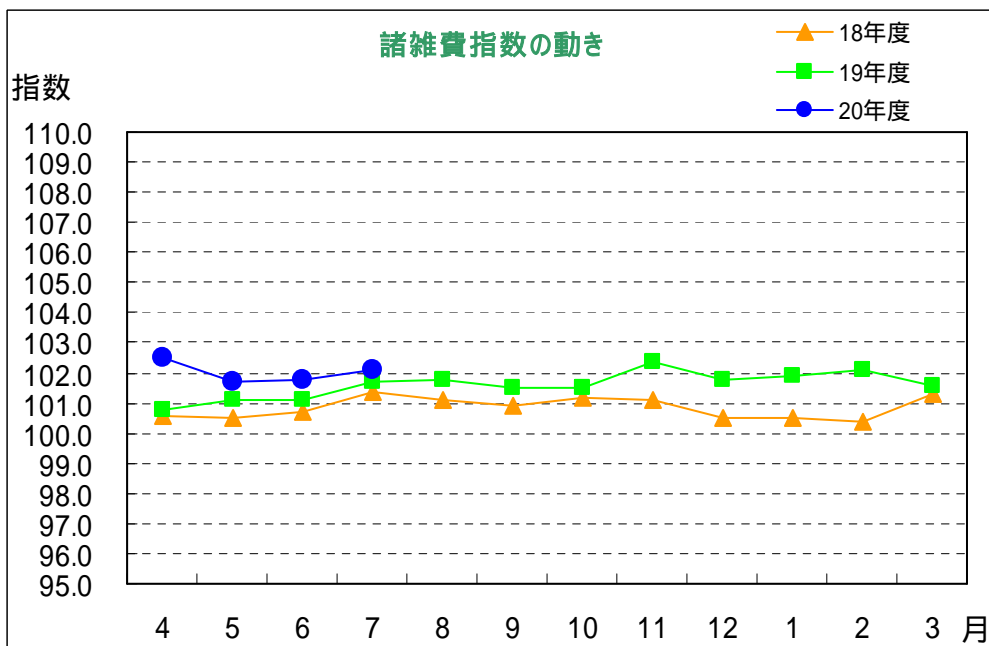
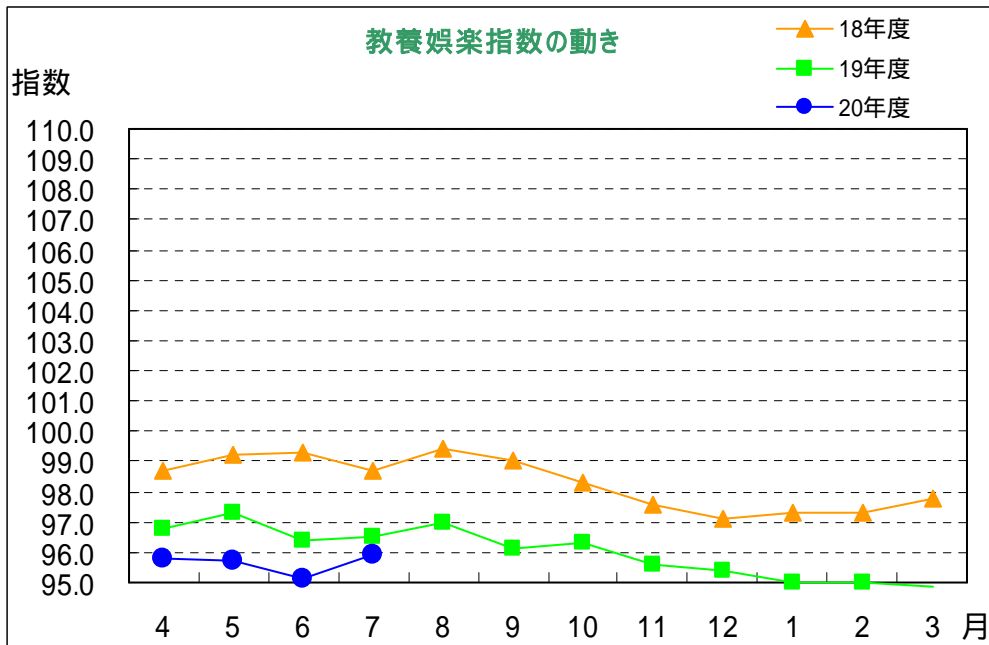
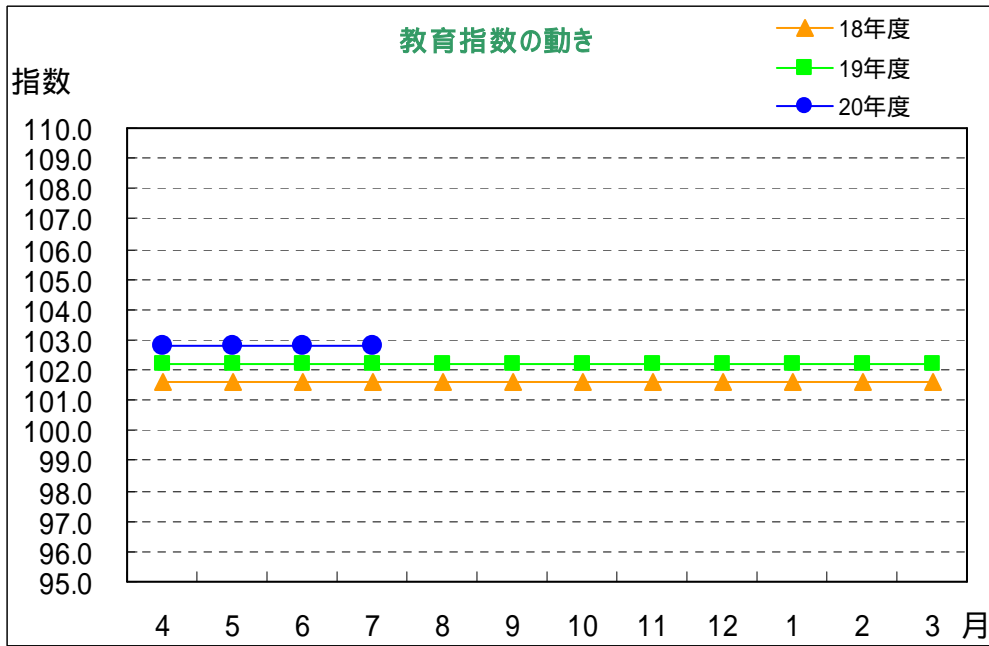
*寄与度・・・総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

10大費目別の年度比較









【参考】

消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃4品目を加えた585品目です。これらを大分類したものが10大費目です。

